

 女性医師の窓

ちょっとだけ自己紹介

井村内科医院 井村 淳子

今年4月に医師会に入会した新人会員です。このコーナーへの寄稿を依頼頂き、何を書くべきか悩み、締め切り直前になってしまいました。恥ずかしながら自慢するような趣味やこだわりをもって研究してきた仕事、というのがほとんど無いので、医師になってからこれまでのことを少し書いてみたいと思います。

私は、平成16年3月に金沢医科大学を卒業し、新臨床研修制度の初年度生として金沢医科大臨床研修センターの配属となり、最初の6か月を循環器内科、その後3か月毎に消化器外科、救急救命科、麻酔科、神経内科で研修し、小児科、産婦人科、精神科、リハビリ科、健康管理センターを1か月ずつ回り、地域医療研修として津幡町の「サンクリニックやまだ」でお世話になりました。今の研修制度は少し変わったようですが、初年度の私たちはあまり自由が無く、決められた科で研修したように思います。それでも、消化器外科では末期がんの患者さんの死亡診断書を初めて書いたり、精神科では閉鎖病棟の患者さんを担当したり、更にはRSウイルス肺炎の乳児の双子を受け持ったり、人工妊娠中絶や帝王切開に立ちあったり、理学療法士と一緒にリハビリしたり、人間ドックの報告書を作成したりと、いろいろな経験ができて充実した2年間でした。当時は大学時代からの友人(女性です・・・)と同居しながら研修医生活を送っていたため、特に楽しかったのかもしれませんが。つらいことがあってもお互いに愚痴ったりして、何となくやり過ごすことができていました。

研修医時代には腎臓内科を研修することはなく、ギリギリまで循環器内科で不整脈の治療に携わりたと思ってみたり、神経内科にも興味が沸いたり、迷っていましたが、やはり実家を継ぐことを考え腎臓内科に決めました。散々迷っていたので、入局のお願いに行ったのは3月に入ってからでした。医局に入局願書を持っていくと、当時の腎臓内科教授石川勲先生がどなたかとお話されていました。秘書さんに促され部屋に入ると、石川先生は願書にハンコを押し、ニヤリと笑いながら隣のおじさんを指して『この人誰だか知ってる?』と聞かれました。私が曖昧な表情で突っ立っていると、『4月から来る横山先生だよ。』と。知らないおじさんは、平成18年4月に主任教授として赴任する(した)横山仁先生でした。それが横山先生との初対面で、それから今年3月まで10年間医局でお世話になりました。横山教授外来のベッシュライベンをしながら、関節リウマチやSLE、大動脈炎症候群などの患者さんの診察を一緒にさせて頂いたり、脳死下献腎移植など様々な腎疾患治療を経験したり、学会活動や臨床研究を(ちょっとだけ)したり、恵寿総合病院や穴水総合病院に出向したり、学生を指導したり、あつという間に過ぎてしまいました。そして、気がつけば私はアラフォーに、父は70歳を越えていました。

入局する時に実家を継ぐことを考えていましたが、両親にははっきりと意思表示しておらず何年も不安に思っていたようですが、今年4月から戻ってきてようやく少し安心させることができました。ただ、まだ独身なのがかなり心配なようですが・・・。

井村内科医院では、診察において近所の方や同級生の親に『先生』ではなく『淳子ちゃん』と呼ばれながら、父の診療の手伝いをしている日々です。そして、今年4月医師会に入会して、改めて医師にはいろんな仕事があるのだな、と研修医の頃に似た新鮮な気持ちでいます。これから、医師会活動にも少しずつ携わっていきけるよう頑張りますのでよろしくお願いします。